

日本語学習におけるビリーフと学習ストラテジーの関係

—日本語を専門とする韓国人大学生を対象に—

呉 禧 受

1. はじめに

どうすれば効果的に学習成果が得られるか。これは学習者本人だけでなく、彼らを教えている教師も関心を持つ課題であろう。このような問題意識から出発して、優れた学習者の学習能力を把握し教育に利用すべきであるという主張が1970年代からなされてきた(Rubin 1975、Stern 1975)。それ以来、言語教授法の進展と共に学習者への関心が高まり、学習者要因に関する研究が盛んに行われてきた。

学習者要因のうち、本研究で扱うビリーフ(belief)は「学習者または教師が言語学習についていづく信念の総体」であり、教授法や教育環境の改善、学習者の自律的学習能力を促す手段として注目されている(齊藤1996、板井2000、岡崎・堀2000、岡崎2001)。また、ビリーフは具体的な学習行動を支える心的態度とされ、学習ストラテジーの選択と使用の基盤になる(Wenden1986)とされている。これは学習に望ましくないビリーフを抱くことによって学習ストラテジーの使用の範囲を制限するなど、学習を妨げる要因にもなり得る(Horwitz 1988)と予想されるからである。このようなことから、教師の介入によるビリーフの変容についてもしばしば議論されてきた。つまり、言語習得にとって重要であると思われる場合は、学習者がこれまで抱いてきたビリーフを学習に望ましいビリーフに変容するよう手助けをするべきであるということである。

しかし、これまでの日本語教育分野では、ビリーフと学習ストラテジーの関連に関する研究はまだ少ない現状にある。それは、学習者の学習促進の為には各分野の学習者要因が一つのプロセスとして考えられる必要がある(ネウストプニー1999)にもかかわらず、各々の学習者要因がひとつの独立した概念として捉えられてきたからである。

呉禮受

韓国人学習者を対象とした学習者要因研究を見てみよう。桜井(1996)は100人の大学生を対象に学習戦略調査を行い、「韓国人学習者は互いに協力して学習を進めていくことに極めて消極的である」という特徴を見出した。岡崎・堀(2000)は、73名の大学生を対象にビリーフ調査を行った結果に基づき、「韓国人学習者は日本語学習について極めて積極的、かつ楽天的で明るい見通しを持っている」と述べている。これら戦略とビリーフの研究はそれぞれの条件下で実施されたものであるため一般化はできないが、研究の結果は相反しているとも言える。ネウストプニー(1999)が主張しているように、各分野の学習者要因をひとつのプロセスとして考えることにより、韓国人学習者が抱く戦略とビリーフのギャップが幾分なりとも明らかになるのではないかと思われる。

そこで本研究では、韓国人日本語学習者の「言語学習についていただく信念の総体」としてのビリーフと「言語を習得することを目的とした計画や手段全般」としての言語学習戦略の構造を明らかにし、且つどのようなビリーフが学習戦略の使用に望ましい影響を与え、どのビリーフが学習戦略の使用を制限しているかについて考察する。

2. 調査の概要

2-1. 調査の目的

調査の目的は、韓国人日本語学習者のビリーフと学習戦略の構造を因子分析により把握すること、そしてビリーフの因子と学習戦略の因子の間の関係を明かにすることにある。

2-2. 調査方法

調査には短い期間で多数のデータが集められる質問紙調査法を用いた。言語学習に関するビリーフを測定する尺度として、Horwitz(1987)の提案した BALLI(Belief About Language Learning Inventory)を基本にし、かつ板井(1997)を参考にして、67項目から成る韓国語版 BALLI を新たに作成した。言語学習戦略を測定する尺度としては Oxford(1990)の SILL(Strategy Inventory for Language Learning)を韓国で日本語を学習している韓国人日本語学習者の状況に合うように修正した韓国語版

SILL を作成し、それを用いた。回答は、＜1. 強く賛成する＞、＜2. 賛成する＞、＜3. どちらでもない＞、＜4. 賛成できない＞、＜5. 強く賛成できない＞の5段階尺度で答えてもらった。

2-3. 調査の実施

調査対象は、大学で日本語を専門として学んでいる海外留学経験(6ヶ月以上)のない韓国人大学生である。直接日本語クラスを訪れ教師に授業時間を一部割いてもらい調査の趣旨を説明し学習者から了解を得た上で、その場で書いてもらうか手渡して後日収集するという方法でデータを集めた。調査は2005年の3月から4月、11月から12月にかけて韓国のソウル、大田、釜山、木浦、晋州にある計6つの大学で行った。調査に協力した学習者は208名(男:59名、女:149名)である。

3. 結果と分析

データを集計し、ビリーフと学習ストラテジーのそれぞれの項目に因子分析を行い、韓国人学習者に影響のある潜在因子を抽出した。抽出したビリーフの因子と学習ストラテジーの因子に対し重回帰分析を行い、ビリーフが学習ストラテジー選択に与える影響について検討した。

3-1. 因子分析の結果と因子構造

3-1-1. ビリーフ尺度

SPSS13.0を用いてビリーフの因子分析を行った。主因子法と Varimax 回転による因子分析後、十分な因子負荷量(0.35)を示さなかった7項目を分析から除外し、再度主因子法と Varimax 回転による因子分析を行った。その結果、11因子が抽出された。抽出した因子を構成する項目間の信頼性を確認するため、クロンバックの α 係数 (Cronbach's Coefficient Alpha)により内的整合性を求め、0.5以上の数値を示した9因子だけを分析の対象にした。

得られた9因子とそれに該当する各項目の因子負荷量を＜表1＞に示す。

呉禮受

<表 1>ビリーフ尺度の因子分析結果

質問項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9
第1因子($\alpha=0.858$)日本語学習に際しての願望									
40.日本人の友達とたくさん付き合いたい	.76	.02	-.06	-.1	0	0	0	.09	.04
41.日本語の勉強は楽しい	.76	.1	-.08	-.02	.16	.01	-.03	.06	-.04
22.日本人と日本語で話すのは楽しい	.71	.25	-.02	-.08	.07	.13	.08	.04	-.02
42.将来日本で暮らしたい(留学、就職など)	.68	.06	-.03	-.05	.04	-.05	-.06	.04	.05
17.日本の文化背景を理解したい	.63	.13	.07	.01	.01	-.02	-.2	-.03	.05
55.授業時間に日本語で発言する機会がたくさんあってほしい	.61	.31	-.09	.04	.04	.11	.2	.05	-.05
38.日本語で上手に話したい	.56	.06	-.03	-.05	.04	-.05	-.06	.04	.05
54.授業時間に間違ったところは徹底して直してほしい	.51	-.01	-.05	-.03	.21	.14	.18	-.14	-.26
67.私の日本語実力の向上のため今よりもっと活発に授業に参加しなければいけない	.49	.18	-.15	.02	.23	-.08	.05	.01	.26
20.正確な発音で日本語を話すのは重要である	.49	0	-.1	.16	.15	.25	.11	.11	-.2
44.日本の小説や漫画が読みたい	.44	.01	-.18	-.37	.14	0	.04	.04	-.15
39.私が日本語を勉強している理由は日本人をもっと理解したいからである	.42	0	-.11	.04	.01	-.13	.06	.38	0
35.私の興味のある話題を通して外国語を学習するのは楽しい	.36	-.04	-.26	-.25	-.06	.15	.24	.19	.03
第2因子($\alpha=0.651$)積極的な言語学習態度									
65.私は話すのが好きであり、他人との会話を楽しむ	.15	.71	.01	-.17	-.08	-.06	-.05	-.08	.03
66.私は授業時間に活発に発言し、参加する	.21	.66	-.09	.14	.04	.02	-.02	.09	-.05
52.言語学習の進捗が見られなければそれは教師の責任である	-.14	.52	.2	.18	0	0	.3	.06	-.03
60.会話中心の授業が一番いい	.29	.48	-.32	.01	.05	.12	.12	.03	-.05
13.私は日本語がマスターできる	.27	.41	-.08	-.21	.35	.27	.02	.01	-.08
4.私には外国語の特別な能力がある	.26	.39	-.15	.02	-.05	.19	-.14	.17	-.19
第3因子($\alpha=0.630$)否定的な言語学習態度									
59.授業時間に同級生が発言しているのを聞いているのは退屈である	.04	-.04	.68	.12	.01	.1	.19	-.06	.1
45.学習者同士で討論して学習計画やスケジュールを決めるのは時間の無駄である	-.09	-.02	.61	.1	-.17	-.01	.1	.02	-.04
58.ペアーで行う教室活動は嫌だ	-.17	-.36	.5	.04	.11	.07	.05	.17	-.02
27.授業時間に他の人と日本語で話すのは恥ずかしい	-.36	-.26	.41	-.11	-.01	-.05	-.1	-.05	.04
53.授業時間に間違ったところを個人的に訂正してもらうのは恥ずかしい	-.15	.02	.39	.19	-.13	-.05	-.26	-.09	.29
第4因子($\alpha=0.624$)教師への依存									
47.教師のアドバイスが気に入らなくても従うべきである	0	.04	.09	.74	-.02	-.01	.07	.08	-.14
46.教師は教室で主導権を持つべきである	.05	.09	.22	.6	-.06	-.01	.37	.03	.13
48.教師なしで外国語を学習するのは不可能である	-.07	-.1	-.12	.59	.13	-.03	.08	.08	.07

日本語学習におけるピラーフと学習ストラテジーの関係

第5因子($\alpha=0.564$)学習方法

24.たくさんの反復練習は大事である	.18	-.02	-.1	.01	.72	.03	.05	-.06	0
26.カセットによる練習は大事である	.13	-.02	-.15	.07	.65	-.01	.28	.14	.1
25.単語や短い文章を暗記するのは大事である	.23	-.06	.08	-.04	.63	0	.1	.03	.19

第6因子($\alpha=0.685$)日本語学習の難易度

11.日本語は勉強しやすい言語である	.03	.1	.15	-.06	0	.82	-.09	-.03	.04
12.わが国の人には他の外国語より日本語が習いやすい	.16	-.04	-.03	-.03	.1	.79	-.05	.07	-.01
10.言語の中には習いやすい言語とそうではない言語がある	-.02	-.01	-.15	.07	-.13	.63	.08	-.03	.2

第7因子($\alpha=0.690$)教師に対する期待

50.授業を指導するのは教師の責任である	.03	.09	.13	.23	.05	.01	.76	-.01	.09
49.教師は学習者において一番効果的な学習方法を知っているべきである	.03	-.02	-.01	.07	.21	-.12	.65	-.11	.04

第8因子($\alpha=0.563$)道具的動機付け

36.わが国の人には日本語ができることを重要であると思っている	-.04	.14	0	.08	.08	.03	-.05	.79	-.07
37.日本語を学習するとい職場に入れるに違いない	.23	-.05	-.03	.07	-.06	-.02	-.03	.7	.03

第9因子($\alpha=0.548$)言語学習の性質

62.文法は韓国語で説明したほうがわかりやすい	.01	-.01	-.05	-.06	.05	.12	.18	-.04	.77
56.教科書を使用しない口頭だけの授業は私には合わない	-.08	-.41	.18	.11	.12	.09	-.14	0	.58
57.教科書中心の授業がいい	-.2	-.17	.34	.32	.18	.09	.05	.01	.37

※残余項目

1. 大人より子供の方が外国語を習得するのは易しい。
2. 女性は男性より外国語を習得するのは易しい。
3. 人によって外国語習得の特別な才能を持っている。
5. すでに一つの外国語をマスターした人は別の外国語も習得しやすい。
6. 数学や自然科学が得意な人は外国語学習は不得意である。
7. 一つ以上の外国語が話せる人は頭がいい。
8. 世界的に権威を持っている外国語とそうではない外国語がある。
9. 日本語は世界的に権威を持っている言語である。
14. ある人が自分の国で1日1時間言語学習するとした場合、その言葉が上手くなるにはどのくらいかかると思われますか。
 - a.1年以下
 - b.1-2年
 - c.3-5年
 - d.5-10年
 - e.1日1時間では言語をマスターできない
15. すべての人は勉強すれば外国語が上手になる。
16. 授業中に日本の文化背景を学習したい。
18. 日本語は日本で勉強するのが一番いい。
19. 日本語学習の一番重要な部分は文法を学習することである。
23. 日本語で会話をする途中、わからない語彙の意味は推測して言ってもいい。
28. 初級の段階で日本語の誤用が許されれば、後で日本語を正確に話すことが難しくなる。
29. ある言語が話せる人と親しくなりたければその言語をマスターする必要がある。
30. 外国文化を理解するためにはその言語を学習する必要がある。
31. 文法上の疑問点をはっきりしておかないと安心できない。
32. 日本語で会話をする時、はっきりしない部分があっても疑問点を追求しない。
33. 時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと徐々に積み上げて学習していく方が、最終的には実力がつくと思う。
34. 外国語を学習する時、最もいい方法は母語を話す人から学ぶことだ。
43. 単位を取るため、または卒業するため日本語授業を受講している。
44. 日本の小説や漫画が読みたい
51. 授業時間に個人のプライバシーに関する内容はよくない。

呉禮受

61. 授業中にはなるべく韓国語を使わずに日本語を使った方が日本語が上達する。
 63. 文化による習慣の差も授業中に勉強したい。
 64. 教科書的な正しい日本語より実際に使える日本語を勉強したい。

抽出された因子に高い負荷を示している項目の内容を参考にし、命名と解釈を行った。第1因子($\alpha = 0.858$, 13項目)を「日本語学習に際しての願望」、第2因子($\alpha = 0.651$, 6項目)を「積極的な言語学習態度」、第3因子($\alpha = 0.630$, 5項目)を「否定的な言語学習態度」、第4因子($\alpha = 0.624$, 3項目)を「教師への依存」、第5因子($\alpha = 0.671$, 3項目)を「正確さ重視」、第6因子($\alpha = 0.685$, 3項目)を「日本語学習の難易度」、第7因子($\alpha = 0.690$, 2項目)を「教師に対する期待」、第8因子($\alpha = 0.563$, 2項目)を「道具的動機付け(Gardner and Lambert, 1972)」、第9因子($\alpha = 0.548$, 3項目)を「言語学習の性質」因子と命名した。27項目の残余項目が発生した。残余項目の検討については今後の課題にしたい。

また、抽出された9因子の内部構造を見るため、因子間の相関関係を調べた。その結果を<表2>に示す。

<表2>ピルーフ因子間の相関関係

	日本語学習に際しての願望	積極的な言語学習態度	否定的な言語学習態度	教師への依存	正確さの重視	日本語学習の難易度	教師に対する期待	道具的動機付け	言語学習の性質
日本語学習に際しての願望	1	.413**	-.370**	-.047	.345**	.151*	.147*	.161*	-.181**
積極的な言語学習態度	.413**	1	-.334**	.030	.114	.134	.103	.112	-.256**
否定的な言語学習態度	-.370**	-.334**	1	.219**	-.156*	.010	.050	-.036	.368**
教師への依存	-.047	.030	.219**	1	.072	.015	.273**	.126	.211**
正確さの重視	.345**	.114	-.156*	.072	1	.064	.283**	.069	.150*
日本語学習の難易度	.151*	.134	.010	.015	.064	1	.024	.046	.146*
教師に対する期待	.147*	.103	.050	.273**	.283**	.024	1	-.033	.119
道具的動機付け	.161*	.112	-.036	.126	.069	.046	-.033	1	-.042
言語学習の性質	-.181**	-.256**	.368**	.211**	.150*	.146*	.119	-.042	1

* $p < .05$, ** $p < .01$,

「日本語学習に際しての願望」は「教師への依存」を除くすべてのピルーフ因子と統計的に有意な相関関係を持っていることがわかった。そのうち、「積極的な言語学習態度」、「正確さの重視」、「日本語学習の難易度」、「教師に対する期待」、「道具的動機付け」との間では正の相関を、「否定的な言語学習態度」、「教師への依存」、

「言語学習の性質」との間では負の相関を持っていることが明らかになった。また、「積極的な言語学習態度」は「否定的な言語学習態度」、「言語学習の性質」との間に負の相関を持ち、「否定的な言語学習態度」は「日本語学習に際しての願望」や「積極的な言語学習態度」、「正確さ重視」との間で負の相関関係にあり、「教師への依存」や「言語学習の性質」とは正の相関を見せた。

韓国人学習者は日本語学習に対し積極的なビリーフを有しているが、実際の教室活動においてはそれとは対極的に消極的なビリーフを持ち合わせている。積極的なビリーフとしては、日本や日本人に対する友好的な態度や日本語学習に対する意欲、日本語学習に対する自信や積極的に学習を進めていく態度が確認された。また、消極的なビリーフとしては母語や教科書に頼る態度、教師に依存する態度、学習者同士の教室活動を拒む態度が確認された。積極的なビリーフと消極的なビリーフはそれぞれの因子の間で密接な関連を持っている。また、ビリーフを成す項目は積極的とは判断し難いが、積極的なビリーフとした「日本語学習に際しての願望」と統計的に有意な相関関係にあるビリーフとして、反復練習や暗記を重視する学習態度、日本語に対し学習しやすさを感じるビリーフ、学習者指導の面で教師に期待するビリーフが確認された。

次に、このようなビリーフが基盤となっている韓国人学習者のストラテジーの特徴について分析を行う。

3-1-2. 言語学習ストラテジー尺度

言語学習ストラテジーをビリーフと同じ方法で因子分析を行い、12因子を抽出した。そのうち1因子の α 係数が0.5に満たなかったため、それを除外した11因子を分析の対象にした。各因子とそれに該当する項目の詳細は<表3>の通りである。

呉禮受

<表 3> 言語学習ストラテジーの因子分析結果

項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
<u>第 1 因子($\alpha=0.821$)メタ認知</u>											
39.日本語を使うのに自信がない時はいつもリラックスするよう心掛ける	.80	-.06	.08	.08	.16	.06	-.08	.09	-.04	.07	.13
40.間違いを恐れず日本語を話すよう自分を励ます	.75	.13	.10	.08	.20	.10	.06	.24	-.09	-.02	.03
32.他の人が日本語を使っている時は集中する	.64	.23	-.01	.03	-.03	.17	.14	-.11	.15	.17	.00
38.自分の日本語学習の進歩について考える	.50	.15	.12	.03	.05	.21	.23	.26	.11	.19	-.07
33.日本語が上手になるためにはどうしたらいいか、いつも考えているし努力している	.49	.19	.10	.10	-.21	.24	.06	.03	.24	.06	-.16
30.色々な方法を見つけて日本語を使うよう心掛ける	.40	.30	.26	.22	-.14	.13	.39	.21	.14	.02	.00
36.できるだけ日本語で読む機会を探す	.40	.17	.32	.05	.10	.30	-.04	.38	.27	.13	-.02
<u>第 2 因子($\alpha=0.794$)他人と積極的に学習を進める</u>											
46.日本語で話す時、日本語が上手な人や日本語母語話者に間違いを直してもらう	.14	.75	.14	.07	.07	.11	.02	-.03	-.01	-.11	.08
49.日本語で質問をする	.18	.72	-.06	.09	-.07	.05	.09	.19	.04	.02	-.03
48.困ったとき、日本語が上手な人や日本語母語話者に助けを求める	.00	.66	-.05	.03	.12	.00	-.13	.11	.06	.41	.06
47.他の人と日本語を練習する	.03	.63	-.08	.08	.10	.27	-.07	.26	-.05	.07	.17
45.相手の言う日本語が分からない時、ゆっくり話してもらいかもう一度言ってもらう	.09	.55	.26	-.06	.17	.12	.14	-.24	.10	.17	-.12
14.機会があれば、積極的に日本語で会話を始める	.40	.45	.31	.11	-.06	.15	.24	.27	.07	-.03	.01
<u>第 3 因子($\alpha=0.732$)模倣と反復練習</u>											
18.日本語の文章を一度ざっと読んで、再び前に戻って注意深く読む	.14	.07	.70	.03	.20	.13	-.01	.19	.03	.06	-.11
10.新しい単語を何回も書いて言ったりする	.05	.01	.63	.05	.12	.04	-.10	-.17	.22	.05	.33
11.日本語母語話者のように話すよう心掛ける	.17	.23	.55	.22	.16	.24	.17	.22	.05	.16	.06
12.日本語の発音練習をする	.22	.18	.49	.29	.19	.29	.13	.07	.19	.14	-.08
<u>第 4 因子($\alpha=0.664$)記憶</u>											
3.単語を覚えるために新語の音とその単語のイメージや形を結びつける	-.01	-.05	-.08	.73	.18	.23	-.12	-.05	.14	.11	.12
2.暗記しやすいように文章の中	.16	.17	-.01	.64	.01	.06	-.05	.11	.10	-.08	.00

日本語学習におけるピラーフと学習ストラテジーの関係

で新語を使う											
1.日本語ですでに知っていることと新しく学習したこととの関係を考える	.03	.18	.33	.61	.18	-.03	.04	.22	.02	.05	-.20
4.単語が使われる場を心に描いて新語を覚える	.12	-.02	.29	.60	.09	.01	.17	.00	.02	.08	.17
<u>第 5 因子($\alpha=0.695$)類似性</u>											
21.難しい単語は分解して意味を知ろうとする	.08	.04	.14	.04	.72	-.09	.17	-.05	.16	.03	-.07
19.日本語の新語に似た語を自国語の中に探す	.10	.14	.21	.10	.66	.01	-.02	.10	-.27	.00	.05
20.日本語の中にパターンを見つけようとする	.07	.05	.10	.37	.64	.09	.02	-.01	.04	.07	.09
<u>第 6 因子($\alpha=0.766$)日本への興味</u>											
15.日本語のテレビ番組や日本語の映画、日本語のインターネットサイトを見る	.16	.18	.16	.08	-.14	.74	.17	.11	-.12	-.06	.10
16.日本語で読むのが楽しい	.18	.09	.22	.14	.18	.67	.11	.27	.17	-.03	-.07
50.日本の文化を学ぶよう心掛ける	.37	.32	-.01	.11	.00	.63	.08	-.06	-.03	.17	.02
<u>第 7 因子($\alpha=0.572$)応用</u>											
28.他の人が次に日本語でなると言うか推測しようと心掛ける	.01	.05	.03	-.08	.24	.06	.74	.03	.08	.12	.06
27.日本語を読む時、一語一語調べない	.10	-.08	-.03	-.04	-.06	.23	.62	.04	-.07	.04	.00
13.知っている単語をいろいろな文脈で使ってみる	.27	.24	.19	.24	.13	.00	.43	.17	.14	-.12	-.11
<u>第 8 因子($\alpha=0.689$)活用</u>											
17.日本語でメモ、手紙、日記などを書く	.19	.24	.04	.16	.00	.31	.06	.59	.03	.05	.04
37.日本語の実力を高めるため、明確な目標がある	.34	.12	.09	.04	.10	.05	.29	.55	.21	.10	.12
35.日本語で話しかけることのできる人を探す	.38	.34	.25	.05	-.12	.10	-.03	.49	.24	-.03	.04
<u>第 9 因子($\alpha=0.623$)計画的</u>											
8.日本語の授業の復習は必ずする	-.01	-.03	.17	.05	.09	-.02	.03	.05	.78	-.06	.06
34.計画を立て日本語の学習に十分時間をあてる	.24	.16	.06	.32	-.06	-.01	.06	.11	.66	.04	.00
<u>第 10 因子($\alpha=0.518$)対応</u>											
25.日本語での会話途中、適切な語が思い浮かばないときジェスチャーを使う	.21	.18	.18	.04	.01	.01	.03	-.07	.02	.73	-.01
26.日本語で適切な語が思い浮かばないとき自分で新語を使う	.08	-.05	.03	.13	.04	-.02	.19	.40	-.24	.57	-.01
24.知らない単語を理解するため推測する	.07	.02	.01	-.02	.42	.19	.27	.06	.20	.46	-.23

呉禮受

第11因子($\alpha=0.503$)新規

6.新語を覚えるのにフラッシュカードを使う	.05	.09	.05	-.03	.01	-.07	.03	-.03	-.07	-.12	.76
7.新語を身体で表現して覚える	.02	.11	-.06	.13	-.05	.12	-.03	.24	.35	.07	.65
5.新語を覚えるのにリズムを使う	-.02	-.15	.26	.29	.19	.27	.22	.02	-.08	.17	.43

※残余項目

9. 新語を覚えるのにその語があった本のページ、黒板、あるいは道路標識などの位置を記憶しておく。
22. 直訳はしないよう心掛ける。
23. 読んだり聞いたりしたことを日本語で要約する。
29. 日本語の単語が思いつかないとき、同じ意味を持つ語や句を使う。
31. 自分の日本語の間違いに気づき、そこから学んで上達しようと努力する。
41. うまくいったとき、自分を褒める。
42. 日本語を勉強しているときや使っているときに、緊張しているか神経質になっているか気づく。
43. 言語学習日記に自分の感情を書き留める。
44. 日本語を勉強しているとき、自分がどう感じているか他の人に話す。

抽出された因子を構成している項目の内容を参考にし、因子の解釈と命名を行った。Oxford(1990)のストラテジーの区分に従うと、第3因子、第4因子、第5因子、第7因子、第10因子、第11因子は直接的ストラテジーであり、第1因子、第2因子は間接的ストラテジーに該当する。第6因子、第8因子、第9因子の中には直接的ストラテジーと間接的ストラテジーが混在する。

第1因子($\alpha=0.821$ 、7項目)を「メタ認知」、第2因子($\alpha=0.794$ 、6項目)を「学習に積極的に取り組む」、第3因子($\alpha=0.732$ 、4項目)を「模倣と反復学習」、第4因子($\alpha=0.664$ 、4項目)を「記憶」、第5因子($\alpha=0.695$ 、3項目)を「類似性」、第6因子($\alpha=0.766$)を「日本への興味」、第7因子($\alpha=0.572$ 、3項目)を「応用」、第8因子($\alpha=0.689$ 、3項目)を「目的」、第9因子($\alpha=0.623$ 、2項目)を「計画的」、第10因子($\alpha=0.518$ 、3項目)を「対応」、第11因子($\alpha=0.503$ 、3項目)を「新規」に命名した。残余項目は9項目発生した。

次に学習ストラテジーの12因子間の相関係数を求めた。詳細を<表4>に示す。

日本語学習におけるビリーフと学習ストラテジーの関係

<表 4> 学習ストラテジー因子間の相関関係

	メタ 認知	学習に積極 的に取り組 む	模倣と 反復練習	記憶	類似性	日本への 興味	応用	活用	計画性	対応	新規
メタ認知	1	.541**	.529**	.348**	.278**	.596**	.408**	.700**	.383**	.379**	.194**
学習に積極 的に取り組 む	.541**	1	.435**	.289**	.235**	.486**	.286**	.544**	.262**	.285**	.161**
模倣と 反復練習	.529**	.435**	1	.439**	.432**	.448**	.318**	.451**	.328**	.341**	.261**
記憶	.348**	.289**	.439**	1	.420**	.312**	.199**	.341**	.368**	.236**	.289**
類似性	.278**	.235**	.432**	.420**	1	.174**	.292**	.204**	.187**	.291**	.208**
日本文化	.596**	.486**	.448**	.312**	.174**	1	.327**	.493**	.192**	.284**	.188**
応用	.408**	.286**	.318**	.199**	.292**	.327**	1	.333**	.195**	.310**	.150*
活用	.700**	.544**	.451**	.341**	.204**	.493**	.333**	1	.370**	.290**	.227**
計画性	.383**	.262**	.328**	.368**	.187**	.192**	.195**	.370**	1	.089	.223**
対応	.379**	.285**	.341**	.236**	.291**	.284**	.310**	.290**	.089	1	.085
新規	.194**	.161**	.261**	.289**	.208**	.188**	.150*	.227**	.223**	.085	1

* $p < .05$, ** $p < .01$,

学習ストラテジーの12因子間において、「対応」と「計画性」、「対応」と「新規」間を除くすべての因子間で相関関係が見られた。言語学習におけるストラテジーは相互に関連を持ち、ある学習ストラテジーを学習に活用することによって他の学習ストラテジーの使用を促す効果があると解釈できる。

Oxford(1990)はすべての言語学習ストラテジーはコミュニケーション能力を高めることを指向するが故に学習者の自律を推進すると述べ、一つのストラテジーに限らず多様な言語学習ストラテジーを使いこなすことが重要であるとしているが、上記の相関関係の結果がこれを裏付けている。

3-2. ビリーフと学習ストラテジーの因果関係

ビリーフが学習ストラテジー選択に与える影響を検討するため、ビリーフと言語学習ストラテジーの各因子の項目の得点を算出し、その得点について重回帰分析を行った。その結果、ビリーフの9因子のうち6因子が学習ストラテジーの各因子と有意な関

呉禮受

係にあることが分かった。

詳細な分析結果を<表5>に示す。

<表5>ビリーフと学習ストラテジーの重回帰分析結果

	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	R ²
	β	β	β	β	β	β	β	β	β	
S1	.489***	.289***	0.017	0.04	-0.066	0.086	-0.088	-0.013	-0.095	.433***
S2	.315***	.207**	-0.024	0.051	-0.003	0.082	0.002	-0.031	-0.126	.258***
S3	.435***	.150*	0.101	0.015	0.096	0.01	.150*	-0.082	-.137*	.348***
S4	.188*	.170*	-0.07	0.059	.162*	0.006	-0.009	-0.022	-.158*	.214***
S5	.300***	-0.014	-0.055	0.105	0.024	0.032	0.027	-0.035	0.007	.116**
S6	.619***	0.098	0.12	-0.035	-0.072	0.092	-.119*	-0.04	-.181**	.463***
S7	.249**	.240**	0.096	-0.03	-.172*	0.127	-0.099	-0.095	-0.109	.212***
S8	.449***	.281***	.133*	0.095	-0.028	0.027	-0.06	-0.039	-.165*	.381***
S9	0.11	.255**	0.05	-0.045	0.136	-0.1	-0.006	-0.027	0.017	.120**
S10	.324***	0.084	-0.125	0.069	-0.122	0.071	0.056	0.021	-0.099	.216***
S11	0.146	.263**	0.006	-0.006	0.18	-0.037	-0.097	0.007	0.17	.172***

ビリーフ因子	B1:日本語学習に際しての願望 B2:積極的な言語学習態度 B3:否定的な言語学習態度 B4:教師への依存 B5:正確さの重視 B6:日本語学習の難易度 B7:教師に対する期待 B8:道具的動機付け B9:言語学習の性質	学習ストラテジー因子	S1:メタ認知 S2:学習に積極的に取り込む S3:模倣と反復学習 S4:記憶 S5:類似性 S6:日本への興味 S7:応用 S8:活用 S9:計画的 S10:対応 S11:新規
--------	--	------------	---

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$
 β : 標準変回帰係数
 R^2 : 重決定係数

ビリーフの「日本語学習に際しての願望」因子は学習ストラテジーの12因子のうち、9つの因子と統計的に有意な関係にあり、ビリーフの「言語学習に対する自己評価」は学習ストラテジーの8つの因子との関係において統計的に有意であった。「項目40. 日本

人の友達とたくさん付き合いたい(因子負荷量:0.76)」、「項目41.日本語の勉強は楽しい(0.76)」、「項目22.日本人と日本語で話すのは面白い(0.71)」などのような、日本や日本人、日本文化に対する興味・親密感、「項目65.私は話すのが好きで、他人との会話を楽しむ(0.71)」のような普段の言語生活、「項目66.私は授業時間に活発に発言し、参加する(0.66)」のような言語学習における自信と前向きな姿勢を表わすビリーフ因子は、言語学習を営む上で肯定的な働きをするビリーフであることがわかった。

一方、「項目62.文法は韓国語で説明したほうがわかりやすい(0.77)」、「項目56.教科書を使用しない口頭だけの授業は私に合わない(0.58)」などの項目を含むビリーフである「言語学習の性質」は、全ての学習ストラテジー因子と負の関係にあり、そのうち学習ストラテジーの「模倣と反復学習」、「記憶」、「日本に対する興味」、「目的」の4つの因子とは統計的に有意な結果を見せた。言語学習において母語や教科書に頼りすぎることは学習ストラテジーの使用に望ましくない影響を与え得ると言える。また、「項目24.たくさんの反復練習は大事である(0.72)」、「項目25.単語や短い文書を暗記するのは大事である(0.63)」などの項目を含むビリーフである「正確さ重視」は学習ストラテジーの「記憶」とは正の関係を示したが、「応用」因子との間では負の因果関係を持っていた。言語学習に於いて正確さは重要ではあるが、拘りすぎると「項目28.他の人が次に日本語でなんとするか推測しようと心掛ける(0.74)」、「項目27.日本語を読む時、一語一語調べない(0.62)」、「項目13.知っている単語をいろいろな文脈で使ってみる(0.43)」などといった、応用して学習を進めるための言語学習ストラテジーにとっては望ましくないと言える。

4. 考察及び結論

本稿では韓国人日本語学習者の日本語学習におけるビリーフと学習ストラテジーの因果関係を因子分析と重回帰分析により検討した。ビリーフと学習ストラテジーを一つのプロセスとして考えることにより、より総合的に韓国人学習者を理解することができた。

ビリーフの「日本語学習に際しての願望」は言語学習ストラテジーの9つの因子との間に因果関係があり、「積極的な言語学習態度」は8つの学習ストラテジー因子との間で因果関係があり、言語学習ストラテジー使用に極めて有効であることがわかった。また、母語や教科書に頼る「言語学習の性質」因子は学習ストラテジーに望ましくない

呉禮受

影響を与えていることが明らかになった。

ビリーフ因子の中、大量の反復練習や暗記に関する「正確さの重視」は言語学習ストラテジーの「記憶」以外には有効な因果結果を見せてないが、言語学習ストラテジーの選択に最も有効的である「日本語学習に際しての願望」との間で極めて高い相関関係を見せた。また「日本語学習に際しての願望」を構成する13項目の中にも正確さに関する項目が2項目含まれている。これは韓国人学習者が学習を進めるにあたって「正確さ」に関するビリーフが多大な影響を与えていることを示唆している。また「正確さの重視」は「教師に対する期待」と統計的に有意な相関関係にある。正確さを追求する結果の一つとして、教師への期待が大きくなるのではないかと思われる。

本研究の結果として、岡崎・堀(2000)が言及した「日本語学習についての積極的、かつ楽天的で明るい見通し」に近い韓国人学習者のビリーフは確認することができた。このようなビリーフを持ちながら桜井(1996)の言う、「互いに協力して学習を進めていくことに極めて消極的」な学習態度を見せる原因として2つが考えられる。一つは正確さを重視するあまり学習者同士で協力するより、教師から教えてもらいたいというビリーフの方が大きいからではないかということである。もう一つはビリーフの分析で消極的なビリーフとして分析した母語や教科書に頼る態度、教師への依存、学習者同士の教室活動を拒むビリーフの直接的な働きではないか、ということである。これらのことについては学習者を対象にしたインタビュー調査を通してさらに検証する必要がある。

教師の介入によるビリーフの変換が可能であるとすれば、積極的な学習の妨げになるビリーフを学習ストラテジー運営に望ましいビリーフへと導いていくことを提案したい。また、本研究で消極的な授業態度の一つの原因であるとされた正確さを重視するビリーフは学習意欲とも密接な関連を持っているので、変換に際しては慎重が必要である。

今後は今回の調査結果を土台にして、これらの結果が成績とどのような関係にあるかについてさらに検討していきたい。

参考文献

- 板井美佐(1997)「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS-上海復旦大学のアンケート調査より」『日本語教育論集』第12号、筑波大学留学生センター、pp.63-88
- 板井美佐(2000)「中国人学習者の日本語学習に対する BELIEF について-香港4大学のアンケート調査から」『日本語教育』104号、日本語教育学会、pp.69-78
- 岡崎智己(2001)「母語話者と非母語話者教師の BELIEFS 比較-日本と中国の日本語教師の場合」『日本語教育』110号、日本語教育学会、pp.110-119
- 岡崎眸(1999)「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」『日本語教育と日本語学習-学習ストラテジー論に向けて』第10章、宮崎里司・J.V.ネウストプニー共編、くろしお出版、pp.147-158
- 岡崎眸・堀和佳子(2000)「言語学習についての確信-韓国人日本語学習者の場合」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第53巻、お茶の水女子大学、pp.185-201
- 桜井恵子(1996)「韓国大学生の日本語学習ストラテジーに関する研究」『外国語教育』2(1)、外国語教育学会、pp.97-115
- J.V.ネウストプニー「言語学習と学習ストラテジー」『日本語教育と日本語学習-学習ストラテジー論に向けて』第9章、宮崎里司・J.V.ネウストプニー共編、くろしお出版、pp.3-21
- 大和隆介・真野千佳子・山本厚子・中島優子(2005)「学習ストラテジーとはなにか」『言語学習と学習ストラテジー』第1章、大学英語教育学会 学習ストラテジー研究会編著、リーベル出版、pp.1-30
- Ellis, R. (2004) Individual differences in second language learning, In C. Elder & A Davies (Eds), *The handbook of applied linguistics*, Oxford , England: Blackwell, pp.523-551
- Horwitz, E. K. (1987) Surveying student's Beliefs about language learning, *Learner Strategies in Language Learning*, Ed. Wenden, A. and Rubin, J. , Prentice-Hall International, pp. 119-129
- Horwitz, E. K. (1988) The beliefs about language learning of beginning university foreign language students, *Modern Language Journal*, 72, pp.283-294

- Oxford, R.L.(1990) *Language Learning Strategies*, Newbury House (オックスフォード,
レベッカ.L(1994)『言語学習ストラテジー』凡人社
- Oxford, R. L. & Anderson, N, J. (1995) A crosscultural view of learning styles,
Language Teaching, 28, pp. 201-215
- Rubin, J. (1975) What the good language learner can teach us, *TESOL Quarterly*, 9,
pp.41-51
- Stern, H. H. (1975) What can we learn from the good language learner? *Canadian
Modern Language Review*, 31, pp.304-318
- Wenden (1986) Helping *language* learners think about learning, *English Language
Teaching Journal*, 40, pp.3-1